

グループワークの進め方

1. 目的:

第2回在宅医療介護推進部会(10/24)における講演を踏まえ、連携体制、スキル向上のための令和7年度以降の具体的な取組について検討すること

2. ワークの流れ:

①	目指す姿を話しあう!	20分	「スキル向上」や「連携体制」に関する目指す姿について共有する
②	現状・課題を話しあう!	30分	目指す姿に対して現状と課題を共有する
	中間発表	10分	他グループのワーク結果を参照・共有
③	方策を検討する!	30分	目指す姿と現状・課題とのギャップを埋めるための取組を検討する
	発表	20分	・他グループのワーク結果を参照・共有 ・部会員から意見 ・総括

3. 実施方法: 3グループが違うテーマで検討

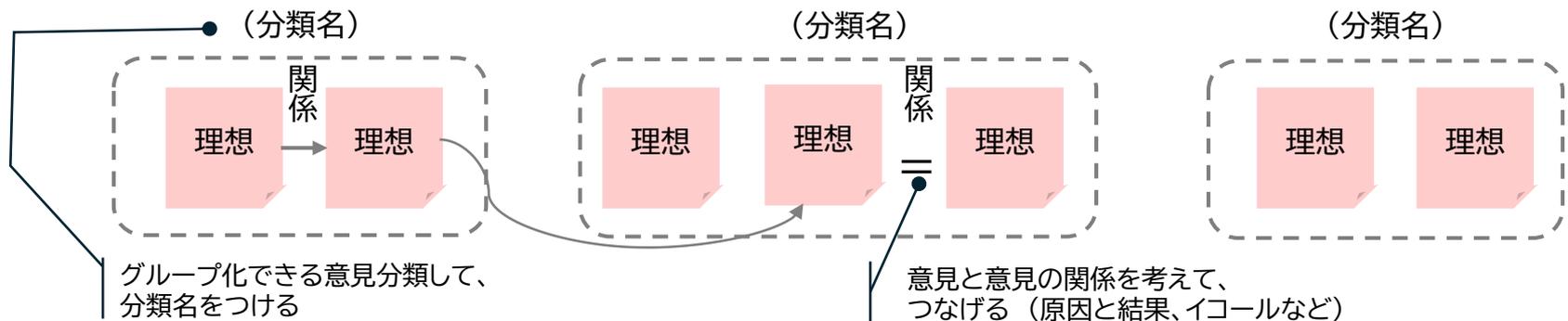
【グループワークの共通ルール】

- ・意見は各自が付箋に文章で書いて「見える化」しましょう
- ・付箋を模造紙に貼りながら、それぞれの意見を分類しましょう
- ・分類したグループに名前をつけましょう

①目指す姿を話しあう

各グループごとの「検討したいこと(テーマ)」について目指す姿(ありたい姿)を共有する。

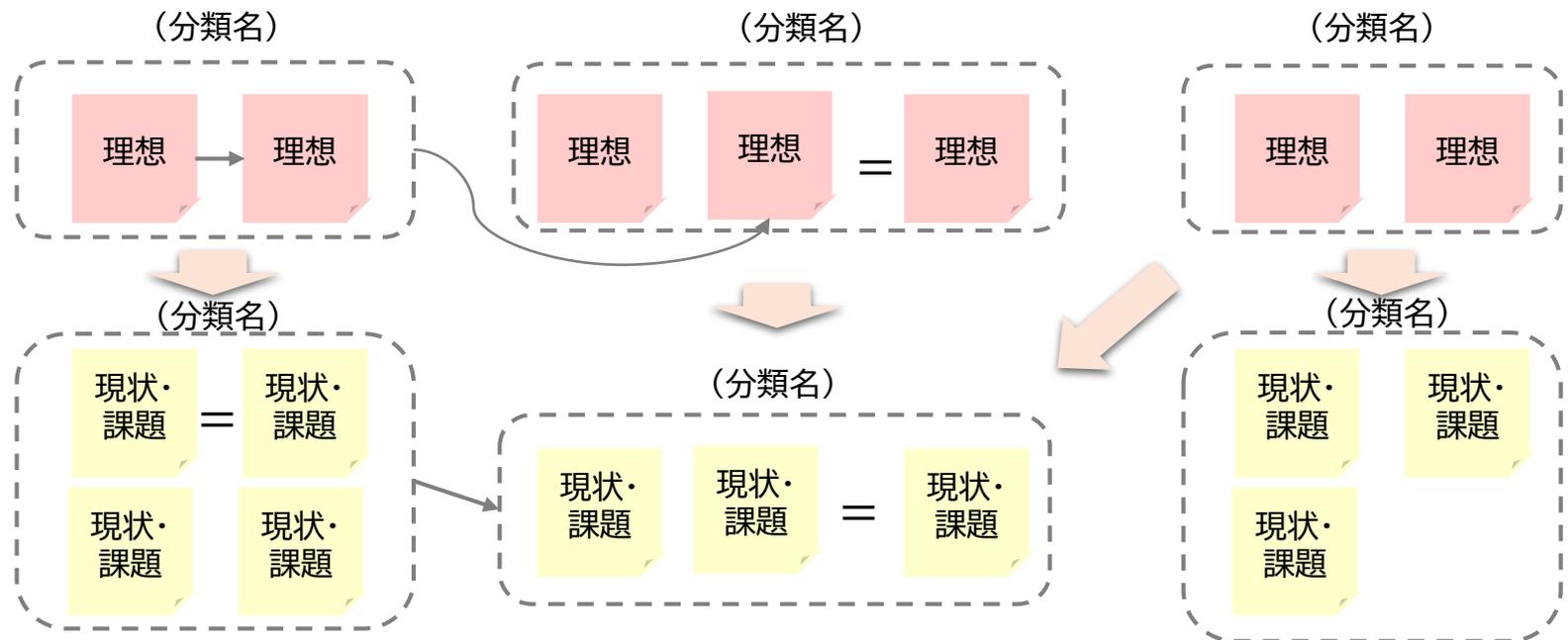
- ・ピンクの付箋に各自で目指す姿を記入する。
- ・書き終わったら1人ずつ、記載内容を発表しながら付箋を模造紙に貼る。(1人 1~2分以内)
- ・同じ(類似)の意見があれば、近くに付箋を貼って、分類する。
- ・全員の発表が終われば、付箋の分類について確認^(※)し、グループごとに分類名を記入する。
(※意見と意見の関係性やつながり(原因と結果、イコールなど)を考える)



②現状・課題を話しあう

(1)の目指す姿に対して、現状・課題について共有する。

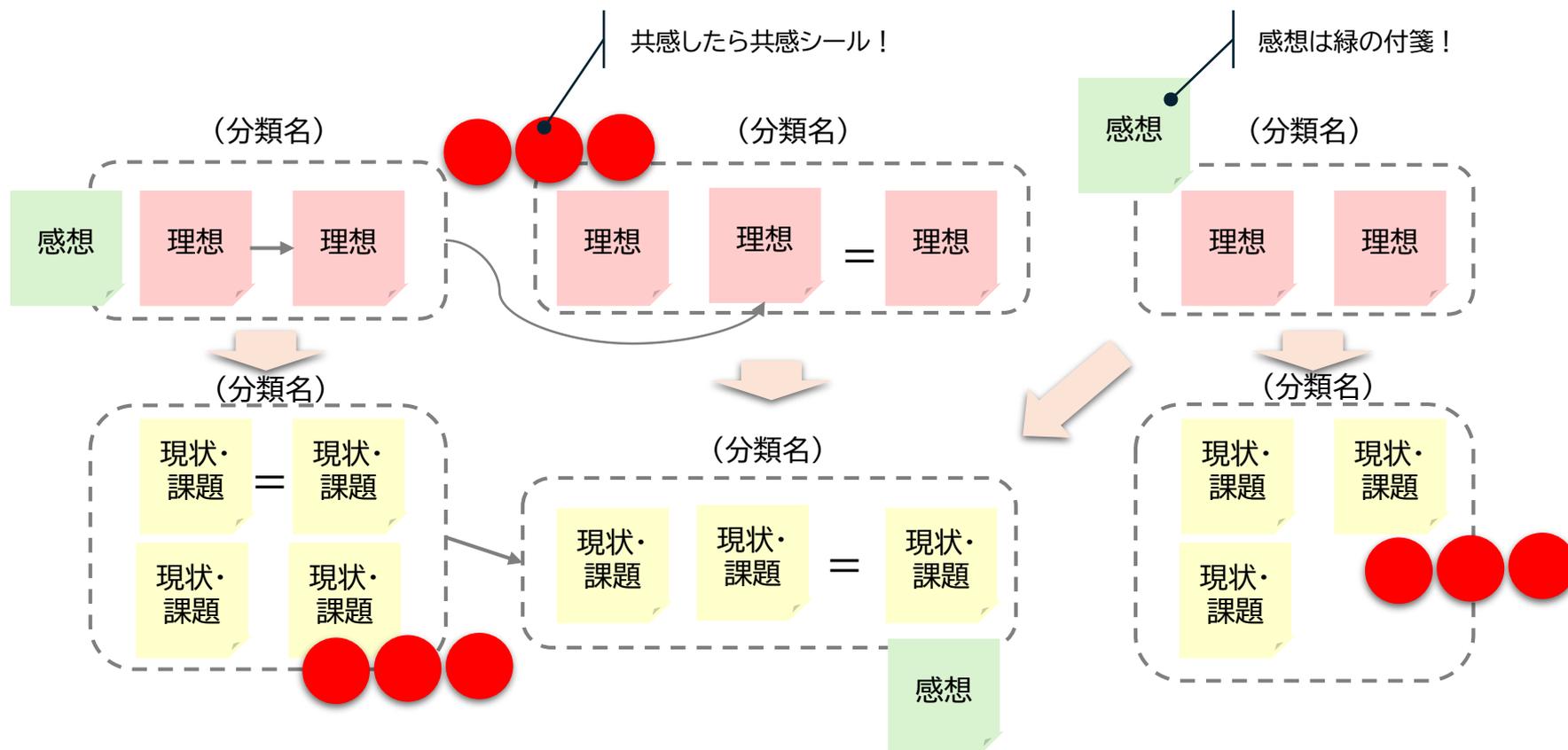
- ・黄色の付箋に、現状や課題について記入する。
- ・書き終わったら1人ずつ、記載内容を発表しながら付箋を模造紙に貼る。(1人 3~4分以内)
- ・同じ(類似)の意見があれば、近くに付箋を貼って、分類する。
- ・全員の発表が終われば、付箋の分類について確認し、グループごとに分類名を記入する。



◇中間発表/発表

他グループのワークの結果を参照・共有する。

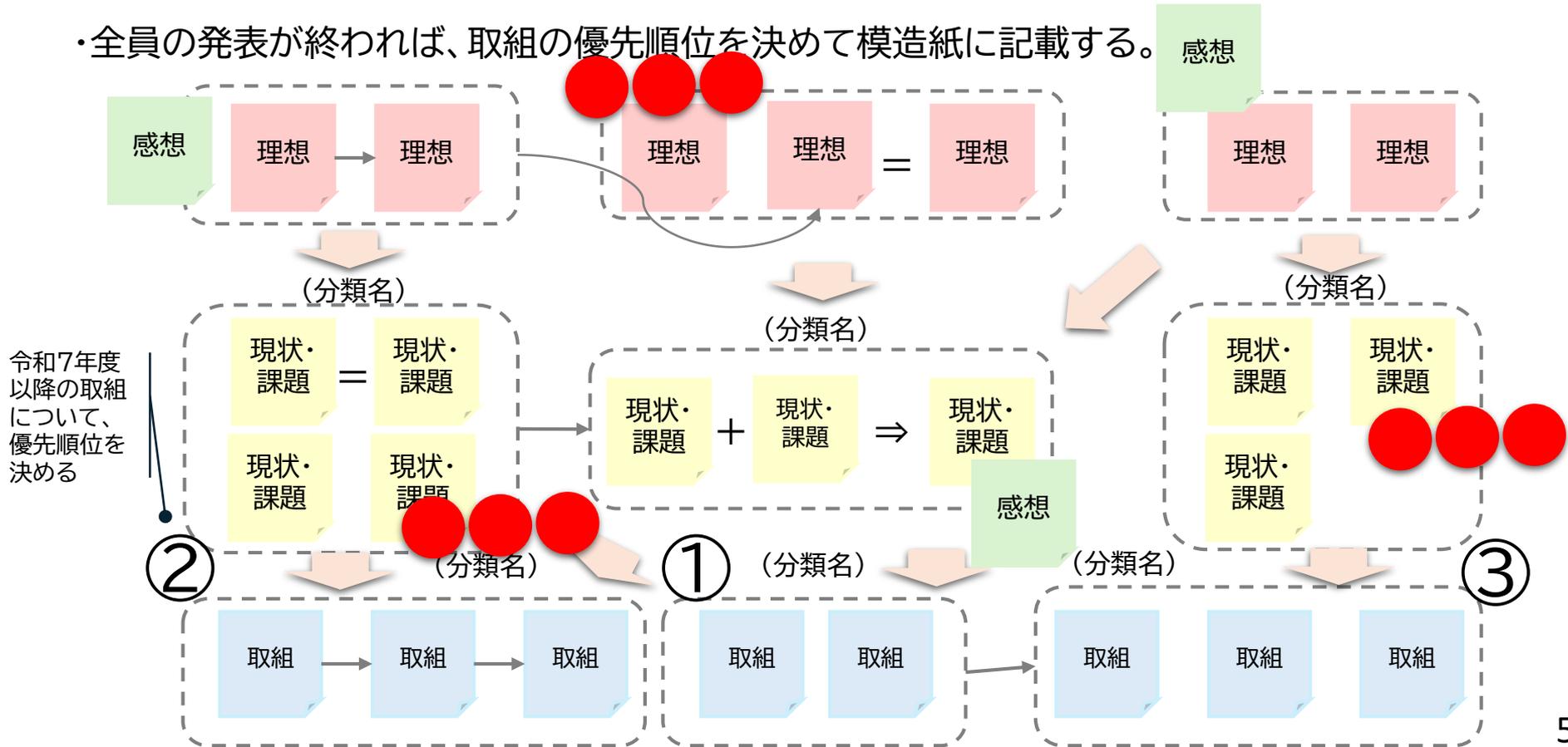
- ・隣のグループのテーブルに移動し、ワークの内容を確認する。
- ・感想があれば、緑の付箋に記入して、模造紙に貼る。また、共感を得られた意見には、カラーシールを貼る。



③方策を検討する

目指す姿を実現するために必要な令和7年度以降の取組を検討し、優先順位をつける。

- ・水色の付箋に各自で事業所としてできること、職能団体としてできること等を含めて取組内容を記入する。
- ・書き終わったら1人ずつ、記載内容を発表しながら付箋を模造紙に貼る。(1人2~3分以内)
- ・同じ(類似)の意見があれば、近くに付箋を貼って、分類する。
- ・全員の発表が終われば、取組の優先順位を決めて模造紙に記載する。



4. グループワークのテーマ

【Aグループ:入退院支援】

番号	令和9年の状態(初期アウトカム)	指標
)人材育成・スキルアップ	
	ケアマネ等と病院担当者が連携によりスムーズな退院調整につながった事例を共有し、入退院支援のスキルが向上している	ケアマネ等と病院担当者の関係が構築できている(心理的安全性が保たれている)

<検討したいこと>

- ①ケアマネと病院担当者(看護師や社会福祉士)が、どういう入退院支援のスキルを身に着けることができればよいのか?
- ②ケアマネと病院担当者の中で、心理的安全性が保たれているか?(気兼ねなく情報共有や提案ができる)

テーマ:

※医療経済研究機構 松本佳子氏「ロジックモデルを活用した在宅医療介護連携推進事業の取組み評価」より

①ケアマネ等と病院担当者が、どのような入退院支援のスキルを身に着けることができればよいか

②ケアマネ等と病院担当者の中で、「心理的安全性が保たれている」にはどうすればよいか

※ケアマネ等:在宅のケアマネや包括等に限らず、老健や特養、在宅系施設等を含む
 病院担当者:地域連携室に限らず、病棟の看護師など入退院に関わる職種を含む

【Bグループ:急変時の対応】

番号	令和9年の状態(初期アウトカム)	指標
c)多職種・多機関連携		
2	訪問介護事業所が訪問看護師や医師などの医療従事者と連携体制ができている	利用者の生活状況の変化について、予測し伝えた回数
3	訪問看護事業所が医療機関との連携体制ができている	利用者の病状の変化について、予測し伝えた回数
4	在宅療養者が受診を必要としたときに、医療機関へ受診ができるバックアップ体制ができている	ケアチーム内で連絡網や情報交換ツールを用いて情報共有を行った回数

<検討したいこと>

- ①「連携体制」とは、どの職種とどの職種が、どういう行動ができることなのか？
- ②「バックアップ体制」とは、どの機関がどういう場合に、何をするのか？

※医療経済研究機構 松本佳子氏「ロジックモデルを活用した在宅医療介護連携推進事業の取組み評価」より

テーマ:

①「連携体制」とは、それぞれの職種が他職種とどのような行動ができていればよいか。

②「バックアップ体制」とは、医療機関と在宅事業者間で、どのような場合に、何ができていればよいか。

【Cグループ:看取り】

加群	令和9年の状態(初期アウトカム)	指標
	b)人材育成・スキルアップ c)多職種・多機関連携 d)普及啓発	
2	医療・介護従事者が利用者が望む医療・ケアについて共有することができる	看取りに対するサービス担当者会議開催件数 利用者・家族が病気・病状をどのように理解しているか他職種へ伝えた回数 ※アンケート調査にて認知・理解度を確認

<検討したいこと>

①どの職種が、どうやって共有するのか？

※医療経済研究機構 松本佳子氏「ロジックモデルを活用した在宅医療介護連携推進事業の取組み評価」より

テーマ:

各事業所がどのように「利用者が望む医療・ケアについて」共有するのか。

※・他事業所へ共有するための方法・手段や内容

・施設で看取りをするときの施設内多職種の情報共有の方法・時期、他医療機関等との情報共有の方法・手段、時期 など